

栽培漁業技術総合開発研究事業－I（トラフグ）

津本欣吾

目的

本県の主要な栽培漁業対象種であるトラフグについて、放流効果の把握と放流効果向上に係る知見の収集を目的とする。伊勢湾放流群の放流サイズの小型化及び熊野灘放流群の適地放流による資源添加効率向上によりトラフグ放流事業の効果的な推進を図る。

なお、結果の詳細は関連報文に報告したので、ここではその概略を記載する。

方法及び結果

1. 放流実績

- ・伊勢湾における適正放流サイズを明らかにするため、東海ブロック共同放流として、6月1日にALC標識を装着した4cmサイズのトラフグ種苗を伊勢市有滝地先に110,000尾放流した。
- ・7月14日に栽培漁業資源回復等対策事業により、イラストマー標識（右胸鰭基部 緑）を装着したトラフグ種苗15,500尾を、伊勢市二見町地先に放流した。
- ・上記とは別に本年度県内に放流されたトラフグ種苗（無標識）は267,100尾であった。

2. 漁獲実態調査

- ・0歳魚を対象とする小型底曳網、1歳魚以上を対象とする延縄について漁獲統計調査を実施した。
- ・漁獲物調査とイラストマー標識魚の発見は、有滝・安乗市場を主体に実施した。
- ・まき網による春季のトラフグの混獲はみられなかった。まき網による産卵期のトラフグ親魚の漁獲は平成18年以降みられていない。
- ・小型底曳網の10月から3月までのトラフグ0歳魚の推定漁獲量は154kgで、前年（321kg）の48%と極めて低調な漁獲量となった。
- ・延縄漁獲量は35.7トンで、近年では比較的好漁となった前年（72.5トン）の49%の低調な漁況となった。単価は過去最低水準となった前年から、近年並みの水準に持ち直したため、漁獲金額は1.8億円と前年（2.2億円）の83%となった。

3. 放流効果調査

1) 小型底曳網

- ・イラストマー標識を指標とするH22年放流群の0歳

魚での回収率は、伊勢市有機酸放流群が0.41%、二見町地先放流群が0.22%と推定された。また、静岡県が伊勢市有滝地先に放流した鰭カット標識魚は0.08%、ALC放流群は0.06%と推定された。

2) 延縄

- ・イラストマー標識を指標とした、県内延縄による過年度放流された各放流群の回収率は、H21二見町地先放流群が0.12%、伊勢市共同放流群が0.69%、矢作川河口沖放流群0.24%、H20伊勢市共同放流群が0.20%と推定された。また、静岡県が伊勢市有滝地先に放流した胸鰭カット標識魚はH21放流群が0.40%、H20放流群が0.61%と推定された。
- ・安乗地区内の旅館6軒に依頼し、調理時に採集した耳石1,285サンプルを観察した結果、合計199サンプルからALC標識が確認された。ALCを指標とした回収率はH21伊勢市34mm群が0.45%、H21伊勢市45mm群が1.26%、H21伊勢市75mm群が3.92%、H20伊勢市34mm群が0.17%、H20伊勢市42mm群が0.07%、H20伊勢市66mm群が0.30%と推定された。

関連報文

平成22年度全国トラフグ栽培漁業技術開発検討会資料 大分県・愛媛県・山口県・佐賀県・三重県・静岡県・愛知県・石川県・秋田県・（独）水産総合研究センター屋島栽培漁業センター・能登島栽培漁業センター・南伊豆栽培漁業センター

平成22年度栽培漁業資源回復等対策事業報告書（太平洋中海域トラフグ） 三重県・愛知県・静岡県